

# ビブリオバトルやまなし2019

やまなし読書活動促進事業実行委員会では、いろんな本に巡り会って世界を広げていただく機会として、今年もビブリオバトルを開催します。



- ①発表者（バトラー）が読んで面白いと思った本を持って集まる。
  - ②順番に一人5分で本を紹介する。
  - ③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
  - ④全員の発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

4つのシンプルなルールがあるだけです。友達と、仲間と、同僚と、ライブで本について語ることで、本を読むのが楽しくなります。観戦だけでもOK！読書は苦手という方も、熱いプレゼンテーションを聴けば本に触れたくなるはずです。

- 日 時：2019年12月15日（日）開会式・決勝14:00～（受付13:30～）
  - 会 場：山梨県立図書館2階多目的ホールほか
  - 部 門：中学生の部・高校生の部・一般の部
  - 申込受付期間：2019年9月9日（月）～10月28日（月）
  - 申込・問い合わせ先：山梨県教育庁社会教育課 （ＨＰもご覧ください）

あなたが見つけた「本の中のやまなし」を教えてください!

# やま読シンポジウム

やまなし読書活動促進事業実行委員会では、山梨にゆかりのある本、本の中に山梨が登場する作品を広く県民の皆様に御紹介し、私たちのふるさと山梨の魅力の再発見につなげたいと考えています。本の中にかくれている山梨をさがして下記Twitterへ、書名、著書名、出版社名と、紹介文をお寄せください。

やま読Twitterアカウント  
@yamadokchan #かくれ山梨をさがせ

「まーの・あ・まーの」による手話による絵本の読み聞かせの様子

聞こえない子どもたちに絵本の楽しさを広めていくための活動を行っている「まーの・あ・まーの」。設立して12年、活動が認められ2019子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰に輝きました。春夏秋冬各季節に1回ずつ、甲州市立勝沼図書館を拠点に手話での絵本の読み聞かせとアニメーションのおはなし会を開催しています。赤ちゃんから小学生まで参加者は年々増えています。聞こえない子どもだけでなく、聞こえる子どもも一緒に参加を楽しんでくれています。「まーの」はイタリア語で「手」、「まーの・あ・まーの」で「少しずつ」という意味です。絵本の楽しさを広めていくとともに、聞こえないことについての理解、手話というすてきな言葉が広まることを願い活動をしています。



# ヤマガ PRESS 2019 秋

# 本の中にやまなしを探せ!



本と山梨が大好き、矢部太郎です。テレビのお仕事で山梨に通うようになつて3年以上になります。どこからでも、どの方向を見ても緑の山が見える山梨の風景、人のあたたかさ、とても落ち着きます。そんな山梨が舞台になつてある小説を一冊紹介させてください。風景描写の中に僕も大好きな山梨の雰囲気が感じられて、皆さんも親近感を持つて読めると思ひます。

『14歳、明日の時間割』。鈴木るりかさんという中学生の作家さんが書いた14歳の中学生のお話です。

▲7月25日に刊行された「大家さんと僕 これから」を手に川嶋への思いを語ってくださった矢部さん。

高割みたいになつていて面白くなつた女の子のお話です。「調子がいい」という意味で使う慣用表現を知らないくて「顔だと思って」いるお父さん。その小路実篤の作品になぞらえて言つちやう女の子。やりとりあふれていて笑つちやいます。家庭科が得意な女の子と男の子。「五・六時間目 体育」は体育ある大切な理由があつてマラソン大会にむけて練習を始めるお話。みんなちょっとずつ悩みながら前向きに生きている。きっと誰でも自分に重なるお話があると思います。いま中学生の人、これから中学生になる人、昔中学生だった全ての人に読んで欲しいです。僕は「読書は、ひとりでしていても、みじめに見えない数少ない行為だ」という書き出しで始まる「昼休み」に出てくる、休み時間についても一人で本を読む女の子に14歳の頃の自分が重なりました。

矢部 太郎の「わたしが見つけたやまなし」

あなたの町の本屋さん、図書館の方から、  
山梨にゆかりのある本や、  
山梨に関係することが登場する本を  
紹介していただきました。  
秋の読書週間を機に、ふるさと山梨の  
魅力を再発見してみませんか。



### 「だたら八つ」

著者:田中 智  
出版社:げんじろう工房

「だたら」は甲州弁で「やたら」。「だら八つ」は、「とにかくたくさん」のハケ岳に関する情報誌です。子供は虫の生態に嬉しい、大人はハケ岳の深い自然や文化に感嘆します。出版している「げんちゃん」と田中智さんは横浜から高根町に移り住み、植生の研究をしながら自然ガイドを務め、御自身の目で見て足で歩いてこの本を作っています。

あなたの町の本屋さんから  
北杜市 清文堂書店



### 「里見八犬伝」

(21世紀版少年少女古典文学館第21巻 他)  
著者:栗本 薫  
出版社:講談社

江戸時代を代表するお話です。八つの玉と牡丹のあざを持つ犬士達の姿に心を躍らせました。主人公の犬塚信乃が「巨摩穴山」でかつての思い人と瓜二つの浜路に出会います。たくさんの出会いと別れが生まれる物語中でも、重要な場面の一つです。韋崎にお越しの際は、「この辺りかな」と想像を膨らませてください。

※これは全訳版ではありませんが、様々な「里見八犬伝」をお楽しみください。  
韋崎市立大村記念図書館  
司書 日向智恵



### シリーズ「紙碑一本の周辺」 「坂本篤斎の狂詩曲」

著者:備仲臣道  
出版社:皓星社

出版社を起こした山梨県人、実は結構います。中でも個性的なのが坂本書店の坂本篤。博物学者・南方熊楠の著書を日本で初刊行した快挙。本当に貶められる江戸の風俗小説に文化的価値を見出し、お手上に睨まれても志をつらぬいた熱血漢。書物の仕上がりにこだわる姿勢にも共感。本にいのちを懸けた男の本、是非一読を!

あなたの町の本屋さんから  
甲斐市 敷島書房  
一條宣好

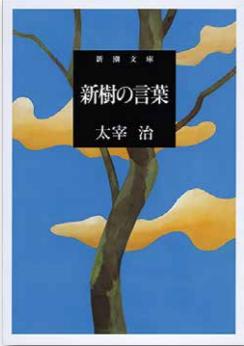


### 「花の鎖」

著者:湊 かなえ  
出版社:文藝春秋社

梨花の祖母に、毎年大きな花束を贈る謎の人物「K」。彼(彼女)は一体何者なのか?そして、花束を贈り続ける理由とは。美雪、紗月、そして梨花、3人の女性のドラマが花の鎖でつながり、切なく温かい物語の真実が見えてきます。物語の舞台は架空の町のことですが、謎に迫る重要な場面で山梨が登場します。お見逃しなく!

2018ビブリオバトル高校生部門チャンプ本  
県立甲府西高校  
司書 西川奈緒



### 「新樹の言葉」

著者:太宰 治  
出版社:新潮文庫

「甲府は盆地である。」—冒頭の一文です。太宰が模索していた頃の作品ですが、甲府滞在中に偶然、義弟妹と出会い、文中から僅かな希望が見えてきます。太宰の再生を確信することができます。文中では、桜町や柳町など甲府の旧地名も登場しています。句読点が多く使われているためか、文全体がリズミカルで、気持ち良い作品です。

2018贈りたい本大賞学校賞受賞  
中央市立田富中学校  
校書 山岸一恵



### 「茶畑のジャヤ」

著者:中川なをみ  
出版社:鈴木出版

「富士山」「ふどう棚」「アルプス」こんな景色を眺めながら物語は始まる。不登校になりそうな周を、祖父はスリランカの旅へと誘う。そこで少女ジャヤと出会い、この国は最近まで内戦状態だったと知る。対立する両側の血を引くジャヤ。その誇りと希望を知り、周は強い気持ちを胸に帰国する。戻る場所はこの地。そう、山梨。

2018贈りたい本大賞金田一秀穂館長賞受賞  
(前)南アルプス市立白根飯野小学校  
司書 長澤麻理 ((現)富士川町民図書館)



### 「志ん生古典落語3 らくだ」

口演:古今亭志ん生  
出版社:弘文出版

「鰍澤」という地名は読みにくく読み方や書き方を聞かれます。この嘶は身延山にお参りに行く旅人が雪の中で道に迷い、山中一夜の宿を頼みます。懐の小判を見たおかみに毒入り卵酒を飲まされ必死に逃げるという落語です。富士川沿いに往来の多かった鰍沢。落語の舞台を巡り「鰍澤」などの嘶を聞くツアーも行われています。

あなたの町の本屋さんと図書館から  
富士川町上田書店 富士川町立鰍沢中学校  
学校司書 村松富士子



### 「戦国武将が愛した名湯・秘湯」

著者:岩本 薫  
出版社:マイナビ出版

山梨といえばやはり武田信玄公。その信玄公が愛した温泉が山梨にあることをご存知ですか?こちらの本は戦国武将たちが実際に入り傷や疲れを癒していました。信玄公が浸かった温泉も3か所紹介されており、その内2か所は山梨県内の温泉です! 一体どこの温泉なのか、ぜひお読みください。

身延町立図書館  
司書 遠藤紗重



### 「ストーブのふゆやすみ」

作:村上しいこ 絵:長谷川義史  
出版社:PHP研究所

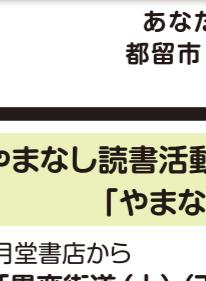
家族でスキー旅行へ出かける日、家にあるストーブが突然しゃべりだし「ひとりで留守番している。」とみんなを困らせます。でも富士山が見られるなら…と行く気満々になって一緒に出かけることになりました。だれも一度は見てみたい山。やっぱり富士山は日本一ですね。ユーモアいっぱい、心がほっこりくなるお話を。



### 「肖像彫刻家」

著者:篠田節子  
出版社:新潮社

装丁にある美しい山々と田園風景がこの小説の舞台です。ワインや馬肉のステーキ、ほうとうなどがでてきて嬉しくなります。「人には、親子孫の縦糸以上に強い同世代の絆がある。血の繋がりでは超えられない時間と文化の壁が世代間にはある。」この一文に作者の物語への思いが込められているような気がします。



### 「わたしの山小屋日記 春」

著者:今泉吉晴  
出版社:論創社

山梨と岩手の山小屋暮らしで自然が教えてくれた知識を探る楽しみ。山梨県東部の山林に建てた山小屋での暮らしで出会った動物や植物、町で出会ったツバメの知恵など、山梨の豊かな自然、それに対する著者の愛情や優しさが伝わってくる。いつも何気なく見ている風景を著者の目線で新たな山梨の魅力を発見してみては?

大月市立図書館  
司書 横川まな美

### やまなし読書活動促進事業実行委員書店からも 「やまなし」本をお薦めします

朗月堂書店から  
「異変街道(上)(下)」著者:松本清張 出版社:講談社  
※現在入手が困難になっています。

「太宰治」著者:井伏鱒二 出版社:中央公論新社

柳正堂書店から  
「龍の袖」著者:藤原絢沙子 出版社:徳間書店  
「木葉童子詩経」著者:野澤 一 出版社:コールサック社  
「健康で文化的な最低限度の生活」著者:斎藤壮馬 出版社:KADOKAWA  
リプロプラスよむよむから  
「スーパーかぶ」著者:トネ・コーケン 出版社:角川スニーカー文庫



6月実施のにこにこ読書  
上級生が下級生に読み聞かせ



県立文学館アウトリーチ  
宮澤賢治の展示と授業の様子



手作りの一音読書のノート  
3年間使います



本の福袋